

令和 8 年 9 月 15 日 通告

(一般質問)

質問日	令和 8 年 9 月 28 日 (月)			質問方式	分割方式		
質問順位	4	会派名	自由民主党浜松	議席番号	14	氏名	小泉 翠
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 ふるさと住民登録制度を活用した関係人口の創出について	国は現在、住所地以外の地域に継続的に関わる人を可視化し、地域の担い手確保などにつなげる「ふるさと住民登録制度」の創設を進めている。 本市においても、令和 7 年 11 月議会の一般質問に対する答弁において、高校生や大学生などの若者と地域との関わりをつくり、その関わりを保つことの重要性が示され、本年度から企画調整部に「教育・若者連携推進担当課長」が設置された。若者との接点を増やし、意欲的な活動を支援するとともに、若者に選ばれるまちづくりに向けた庁内の司令塔としての役割が期待されている。 若者が地域に関わりたいという意欲を持った際に、その機会を一過性の交流で終わらせず、地域との継続的な関わりにつなげていくためには、若者と地域の双方の不安や課題を調整し、両者をつなぐ役割が必要と考える。 そこで以下伺う。 (1) 国が創設を進めるふるさと住民登録制度について、本市としてどのように活用し、若者をはじめとする関係人口の創出や地域との継続的な関わりにつなげていく考えか伺う。 (2) 本年度設置された企画課教育・若者連携推進担当が、若者と地域との関わりづくりに向けてどのような役割を担い、庁内関係部署や大学、地域等と連携しながら、若者の「地域に関わりたい」という意欲をどのように具体的な参加につなげていくのか伺う。						中野市長
2 若者の就職ニーズを踏まえた多様なキャリアを選択できる環境づくりについて	若者の市外流出を抑え、本市への定着を促すためには、地元企業を知る機会を増やすとともに、若者が希望する仕事や働き方を地域に増やしていく視点も重要である。 企業誘致による新たな雇用の創出に加え、地域企業の魅力向上を図ることで、若者が浜松で希望するキャリアを実現できる環境づくりにつなげていく必要があると考える。 そこで、本年度実施している「雇用就労環境実態調査」において、若者の希望する業種や働き方などについて調査しているとのことだが、その結果を今後の企業誘致や地域企業の魅力向上にどのように生かし、若者が浜松で多様なキャリアを選択できる環境づくりにどのようにつなげていくのか伺う。						北嶋企画調整部長
							中村産業部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
3 若者世代のライフデザイン支援について	本市では、若い世代が結婚や子育て、働き方などについて考え、自らが希望する人生を選択できるようライフデザイン支援に取り組んでいる。結婚や子育てに対する考え方が多様化する中においても、将来、結婚や子育てを希望する若い世代に対しては、その魅力や喜びを伝えるとともに、具体的な生活をイメージし、自らの将来を前向きに考える機会を提供することが重要である。 令和7年度の若年層アンケートでは、子供を望まない、あるいは分からないと回答した方は、その理由として「子育てに不安がある」「お金がかかる」「負担に耐えられない」「自分やパートナーとの時間を大切にしたい」が上位に入っている。 そこで、現在実施している出前講座「未来の自分を考える講座」について、結婚や子育てに伴う生活の具体的なシミュレーションを取り入れるとともに、夫婦での家事・育児の協力、両親の近くで子育てをすることや地域・行政の支援を活用することなど、様々な選択肢を知ること、結婚や子育てをより身近に、前向きに捉えられる内容へと充実させていく考えについて伺う。	野田こども家庭部長
4 待機児童ゼロの次の保育施策について	本市では、保育施設の整備や保育人材の確保などに取り組み、待機児童ゼロを達成している。また、ザザシティ浜松中央館内に保育相談センターを設置し、施設ごとの募集状況を公表するとともに、保護者からの相談や希望施設の変更にも対応するなど、入所支援の充実を図っている。 一方で、市全体では保育定員が確保されていても、地域や年齢によって需給状況には差があり、特に1歳児や年度途中の入園については、希望する施設への入所が難しいとの声も聞く。今後は市全体として必要な定員を確保することに加え、地域や年齢ごとの需要や、保護者の希望と実際の入所状況との違いにも着目し、よりきめ細かな保育施策を進めていくことが必要と考える。 そこで、以下伺う。 (1) 令和8年度4月入園の申し込みについて、施設の募集数に対する申込者数や、希望順位ごとの入所決定状況はどのようなであったか。また、第1希望施設とのマッチング率について、地域別の状況や年齢別の需給状況を含め、現在の保育需要と受入枠のマッチング状況をどのように分析しているのか伺う。 (2) 少子化が進む中、今後は既存施設の定員や機能の見直し、認定こども園への移行、保育人材の確保などを通じて、需要の高い地域や年齢に必要な受入枠を確保していくことが重要と考える。本年10月には「はままつ保育	野田こども家庭部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	士・保育所支援センター」の開設も予定されているが、こうした取組も活用しながら、地域・年齢ごとの保育需要に応じた受入体制をどのように構築していく考えか伺う。	
5 行政手続における利用者視点のサービス改善について	行政手続のオンライン化や窓口のデジタル化が進む中、単に手続をデジタル化するだけでなく、利用者がどこで時間を要し、どこでつまづいているのかを把握し、継続的な改善につなげることが重要である。 本市では、本庁の一部に多機能発券機を導入した際に窓口対応に関するデータ収集を開始し、対応時間が長い手続について予約制を導入するなど、データを活用した改善に取り組んでいる。今後は、こうした取組を窓口だけでなくオンライン手続等にも広げ、市民の利用状況を起点として行政サービスを改善する仕組みにつなげることが重要と考える。 そこで、以下伺う。 (1) 窓口対応に関するデータの収集・分析によって、これまでどのような課題が把握され、行政サービスの改善につながっているのか伺う。 (2) オンライン手続についても、利用件数だけではなく、手続の途中離脱や問い合わせ、差し戻しなど、市民がつまづく要因を把握・分析し、サービス改善につなげる考えはないか伺う。 (3) 窓口やオンラインを含む行政サービスの利用データを継続的に収集・分析し、各部署の業務改善につなげる取組を全庁的に展開していく考えについて伺う。	飯尾デジタル・スマートシティ推進担当部長
6 浜松オートレース場の持続可能な運営と新たな来場者層の獲得について	浜松オートレース場は、昭和31年（1956年）の開設以来、改修を重ねながら運営を続けてきたが、施設の老朽化が進んでおり、今後も計画的な整備が必要となっている。 令和6年11月議会の一般質問に対する答弁では、競走路及び選手宿舍の改修を順次進めるとともに、環境整備や魅力的なレース開催により、新規ファンの獲得や収益増を目指すとの考えが示された。 一方、持続可能な運営のためには、施設整備を計画的に進めるだけでなく、既存の施設や空間を有効に活用し、これまで馴染みのなかった層にも訪れてもらうための工夫を重ねていくことが重要である。 そこで、以下伺う。 (1) 浜松オートレース場には、小公園HAMAPAや休憩所など子どもが遊び、憩う場所があり、親子のレジャースポットになりうるポテンシャルを秘めているが、現状では活かし切れていないと考える。既存の施設について、子育て世代に広く認知してもらい、訪れたいくなる場	中村産業部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	所とする考えについて伺う。 (2) 令和6年11月議会での答弁の後、新規ファンの獲得に向けてどのような取組を行い、成果があったのか伺う。 また、今後、既存施設の活用や運用上の工夫により、これまでオートレースに馴染みのなかった層の来場を促し、新たなファンの獲得につなげていく考えを伺う。 (3) 令和6年11月議会の答弁では、女性選手の増加を踏まえ、動線の分離などにも配慮した選手宿舎の改修を進める考えが示された。選手宿舎について、その後の関係者との協議や整備内容の検討状況を伺う。	